



横浜市立富岡小学校

学校だより 2月号



地域・保護者の皆様とともに“つくる”富岡小

副校長 雨宮 端

まもなく、私が富岡小学校に赴任して初めての一年間を終えようとしています。そんな今、改めて感じることがあります。それは「富小には心強いサポーターがたくさんいる」ということ。その中心となるのが、本校の教育活動をともに支えてくださっている地域・保護者の代表の方々と組織されている「学校運営協議会」です。地域保護者が積極的に学校経営に参画し、地域の力を生かすことで教育活動の一層の充実を図ることを目的に全国の小中学校で設置が進められました。富岡小でも設置以降、地域とともに“歩む”学校から、地域とともに“つくる”学校へとその関わりを深めてきました。毎年、学校経営方針や重点取組内容を共有し、多くのご助言をいただきながら、それを学校教育活動に生かしています。11月に行われた150周年記念式典でも、子どもたちの嬉々とした姿や教職員との“一体感”について「たくさん感動をもらいました。」と励ましの言葉を数多くいただきました。

本校の大きな特徴の一つに、登録者数のべ70名を超える地域ボランティアさんのご支援があります。花壇隊の皆さんと3年生や5組のみんなとともに育てた野菜や花は、本校に潤いをもたらしてくれます。大豊作だった大根を使った「ぶり大根」が給食で出されたのは記憶に新しいところ。3年生や5組のみんなが、感謝の気持ちを伝えようと心を込めて企画し、花壇隊の皆さんを招待する交流会は毎回毎回とっても温かな様子で、本当に心が洗われるようです。新一年生の生活や学習全般を支えてくださる4月のエプロン隊の皆さんなくして、富小の年度始めは考えられませんし、年間を通じて入れ代わり立ち代わりお越しくくださる図書ボランティアの保護者の皆さんの活動は、児童と本との関わり、読書啓発に絶大な効果があります。他にも、家庭科実習や水泳学習のサポート、毎日の登下校の見守り、地域防災の柱となっている運営委員の方々等、挙げたらいとまがありません。子どもたちが地域の方々と関わる時間そのものが、自然と子どもに感謝の心を育て、後の人生に大きな影響を与えてくださっているのだと強く感じております。

つい先日、とある地域の方からこんなお問い合わせをいただきました。「学校ではテトラパック（牛乳等の1Lパック）を集めているんだって？それはベルマークと同じで、子どもたちの役に立つのかい？」というもの。私がそうだとお答えすると、「もっと早く言ってくればよかったのに。それで子どもたちのためになれるなら、学校だよりか何かでもっと発信した方がいいよ！」とおっしゃっていました。子どもたちへの熱い思いが言葉の端々にこもっていて、心底学校の力になりたいという気持ちにあふれたご様子でした。素敵な地域だなと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

富岡小学校で一年を過ごし、様々な学校行事へのご支援ご協力を肌で感じるとともに、私自身多くの地域行事に参加する機会をいただきました。そこに集う子どもたちの笑顔を見るたび、この学校がいかに保護者・地域の皆様に支えられ、富岡のまちに根ざした場所であるかを強く感じる事ができました。そしてこれからも、「地域の宝」である子どもたちを、地域・保護者の皆様とともに育てていきたいと思っております。



「テトラパックのベルマーク運動」は、マークを切り取るのではなく、テトラパックの紙容器そのものを“開いて洗って乾かして”という方法です。たまたまところで、学校までお届けくだされば、いつでもお受け取りいたします!!